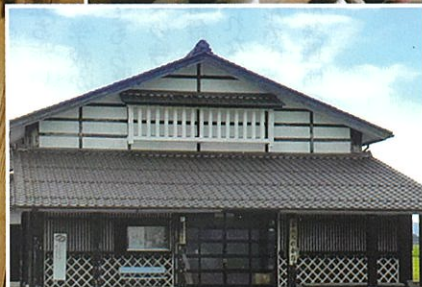


児童、生徒の健全育成と
伝統芸能継承

滋賀県長浜市 富田人形共遊団





小学校における人形教室

1999年春、富田人形に主として携わっていたメンバーが高齢化し、貴重な文化財を後世に伝えることや後継者育成の必要性を感じ、学校側との協議を重ね、地元小学校（びわ北小学校・びわ南小学校）で授業の一環として人形教室を開設することになった。年間20回程度の教室を開催し、保護者を対象に成果を発表する機会を持つことになった。子どもたちとの会話の中から話題になったことを床本として著し、全教職員が協力をしてくれることとなった。舞台装置、効果音、裏方、ポスターなどを分担し、2002年には「富田人形の歌」も作詞作曲され、全校児童が開幕と終わりに大合唱をしてくれるようになった。

人形遣い、浄瑠璃、三味線は、富田人形共遊団から指導に出向き、6年生のみが担当することにし、5年生は、来年は自分たちが人形に触れられる、三味線が弾けると楽しみにするようになって、学校の特徴ある取り組みとして継続する事業となった。

富田人形ジュニアクラスの開設

数年前、授業に入れない子どもや入学してから一言も友だちとは話さない子ども、多動傾向があり授業中立ち歩いたり友だちとトラブルを起こしたりする子どもがいて、学校からこうした子どもたちに何か自信を持つ取り組みをしてもらえないかとの依頼を受け、2017年、富田人形ジュニアクラスを開設した。小学生・中学生を対象に希望者の募集を行い、開始当初は8名の希望者があり、その中には、教室に入れない子ども、話をしない子ども、多動傾向の子どもも申し込んでいた。

活動の場所は富田人形会館として、富田人形共遊団のメン

バーが指導者として月に2回水曜日の午後3時30分から2時間程度、浄瑠璃のテープに合わせて人形を遣う稽古を実施した。10分程度で演じられる二つの演目を準備し、子どもたちに話し合せて担当を決めさせたが、なんと多動傾向のC君がリードして話をまとめる、無口なBさんも自分が持ちたい人形をはっきり言う、教室に入れないA君は最初から足を遣いたいなど自分の思いを伝え、学校で聞いた子どもの様子とは違う面が見られた。

特筆したいことはA君である。教えられたことをキッチリ理解し、一生懸命に足を遣っていることだ。先生が何度言っても教室に戻ろうとしないA君が、3人で一体の人形を遣うために一生懸命な姿を見せてくれたのだ。メンバーは指示よりは、むしろほめて育てようと思っているので、A君に「上手だよ」というと、嬉しそうに笑顔で自慢そうな表情を見せてくれる。寡黙なBさんは人形の頭を持っているが、3人で助け合わないと重くて自分が苦むむということがわかってきて、左遣いや足遣いの人と小さな声ながら話をするようになってきた。メンバーにも心を開いてくれたのか、おやつタイムにはそばに寄ってきて学校のことや家のことなどを話すようになってきた。

C君は人形には特に希望がないようで、左遣いでも足遣いでも良いから遣うよという姿勢で、これも学校から聞いた情報とは異なっていた。

現在では「傾城阿波の鳴門」と「式三番叟」の2演目をマスターし、町の文化祭や富田人形の定期公演などの舞台で公演し好評を得ている。

子どもたちの成長を実感

学校との連携を深め、状況は逐次報告を行っているが、問



題を抱えている子どもたちが富田人形のメンバーと打ち解け、また他の子どもたちとも諍いもなく取り組んでいることが教職員には当初は信じられなかったようである。2019年の2学期には、皆が普通の学校生活ができるようになっていった。変化した要因ははっきりとはわからないが、伝統ある人形の操作に携わって舞台上で演じ多くの人たちから称賛の拍手をもらったこと、普段あまり構ってくれなかった両親が、稽古を見に来たり楽屋で世話をしたり舞台を見たりしてくれ、家庭で人形の話ができるようになったこと、富田人形のメンバーからの声かけや励ましなども大きな力として作用していったのではないだろうか。

学校も、地域の貴重な文化財を後世に伝えるため人形教室に教職員が協力し、保護者の支援もあって他校にはない特徴ある取り組みとして今後も継続していく意向である。

本年度は新型コロナウイルスの影響で活動を休止しているが、C君は人形の稽古が早くしたい、いつから始まるのか聞きに来たりして意欲を漲らせている。

2017年にジュニアクラスに加入してきた子どもたちは、進級・進学しても続けて稽古に参加しており、現在中学3年生の女子は高校へ行っても人形を続け、将来は富田人形共遊団の一員として頑張ると言っている。富田人形共遊団が実施している国際交流で外国の学生たちと会話をしたり海外公演に行ったりしたいという希望を持っている。

参加した子どもたちが伝統ある郷土の文化の存在を理解し、将来の地域の宝である人形浄瑠璃の担い手として成長してくれることを願うと共に、地域の子どもは地域で育てることをモットーに今後も学校と綿密に連携して事業をすすめていきたいと願っている。